



市史へんさん

残暑の厳しい日が続きますが、暦の上ではもう秋です。9月は旧暦で長月と言い、夜がだんだん長くなる、「夜長月」からこの名があります。秋も深まれば、読書に打ってつけの季節です。今月は図書館と共催で文学講座を開催します。折しも小松天満宮が創建 360 年を迎え、宝物館が新築されました。天満宮といえば菅原道真を天神様として祀る天神信仰に篤いですが、今回はこの天神様に注目し、当時の庶民は天神に対しどのようなイメージを持っていたのか、当時の文学にも触れながら検証します。講師は、『文芸編』を執筆され、当市ではお馴染みの綿拔豊昭教授です。皆様の多数のご参加お待ちしております。



こまつ市民読書の日講座

図書館共催事業

天神と文学



講師：綿拔 豊昭筑波大学教授

日時：平成 28 年 9 月 24 日(土)
午前 10 時～11 時 30 分

会場：図書館 1 階 視聴覚室

江戸時代天神は厚く信仰されました。
文学作品にも多く登場します。

いろいろな天神様

ポイント



☆ 天神信仰

「天神信仰」とは、神様として崇められた菅原道真公への神霊に対する信仰を言います。また、天神とは、記紀神話に出てくる地上の神様である「国つ神」(代表的な神様では大国主命)と、天の神様である「天つ神」(代表的な神様では天照大神)がありますが、その「天つ神」のことを意味し、特定の神様を指すものではありませんでした。菅公が火雷天神と称され、雷神信仰と結びついて、菅公の神霊を信仰を「天神信仰」と一般的に呼ぶようになりました。何故、菅公が、雷神信仰の「天神」と結びついたのか、以下のとおりです。

☆ 菅原道真(承和 12 年[845]～延喜 3 年[903])

菅原道真といえば、「学問の神様」で有名ですが、11 歳にして詩を詠むなど幼少の頃からその才能を発揮しました。類まれなる才能があったことから、宇多天皇に重用され、娘も天皇に入内し右大臣にまでのぼりつめました。しかし、政敵藤原時平の陰謀によって、大臣の地位を追われ失脚し、昌泰 4 年(901)大宰府へ左遷されてしまいます。2年後の延喜 3 年に大宰府で失意のうちに没しました。その後、天変地異が相次ぎ天皇や時平の周囲の人物が次々に亡くなったり、内裏が落雷を受けて多くの死者がでました。これらが道真の祟りだと恐れた朝廷は、罪を許すと共に贈位を行いました。そして、道真の霊を慰めるため、北野天満宮が建立され、以降、100 年ほど災害が起きるたびに、道真の祟りとして恐れられ、道真を「天神様」として信仰する「天神信仰」が全国に広まっていきました。今では、災害の記憶が風化してしまい、天満宮は学問の神様から受験の神様として厚く信仰されています。





鈴木華邨画「余香ヲ拝スノ図」(『美術工芸編』より)



小松の連歌と俳諧



前田家は、菅原道真の子孫と称して、天神を信仰しました。小松にも天神を祀る天満宮が京都の北野天満宮を模して、明暦3年(1657)に造られました。その前年に、北野天満宮から能順が、初代別当として、小松天満宮に招かれてから、連歌の歴史が始まります。天神は、連歌の神としても信仰され、そのため天満宮関係者には連歌を嗜む者が多いのです。



<事務局8月の活動状況>

- ・ 8月 3日(水) 教育関係調査(丸内中学校)
- ・ 8月 12日(金) 教育関係調査(芦城中学校)
- ・ 8月 23日(火) 産業部会
- ・ 8月 25日(木) 教育関係調査(大和保育所)
- ・ 8月 25日(木) 教育関係調査(第一小学校)
- ・ 8月 26日(金) 教育関係調査(白揚幼稚園)
- ・ 8月 26日(金) 教育関係調査(芦城小学校)
- ・ 8月 30日(火) 教育関係調査(稚松小学校)



<事務局9月の活動予定>

- ・ 9月 6日(火) 建築部会
- ・ 9月 14日(水) 教育部会
- ・ 9月 24日(土) 図書館共催読書の日講座



<9月のカレンダー>

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

は小松市史編纂事務局が閉室しています。9/26～10/3 は、蔵書点検で図書館は休館です。

左の作品は、明治後期のヨーロッパで、北斎以来の日本画家と称された日本画家、鈴木華邨が描いたものです。菅原道真が、九州の大宰府に流された心情を絵に書き表したもので、天皇に詩歌を褒められて、御衣を賜った在りし日の姿を思い出す道真の心寂しい思いが伝わってくる作品です。

華邨は、江戸にある加賀藩出入りの呉服屋「武蔵屋」で生まれました。14歳で、絵師に弟子入りし、貿易商社で働き、陶磁器や漆器の図案を作成していました。明治10年(1877)第1回内国勸業博覧会でいきなり受賞。これを機に、画業に専念しました。尾崎紅葉、泉鏡花などの挿絵を多く手掛け、花鳥画が得意でした。

お知らせ

『新修小松市史資料編 12 美術工芸』

『新修小松市史資料編 13 近世村方』

12月まで、特別価格 3,800 円にて販売しております。残りわずかです。

小松市史編纂事務局 (小松市立図書館 2 階)

- ・ 住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町 19 ・ TEL 0761(24)5315 ・ FAX 0761(22)9763
- ・ E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp
- ・ URL <http://www.city.komatsu.lg.jp/shishihensan/index.html>